

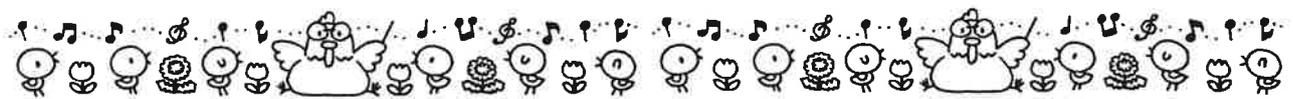
自己評価公開

金華保育園における令和6年度の自己点検および自己評価結果をまとめました。

【評価基準】 4.たいへんよい 3.よい 2.一部検討を要する 1.改善を要する

	内 容	評 価
運営管理	1. 定期的な職員会議などを通して職員の資質向上、業務効率化や改善などに努めている	3.5
	2. 入所の最善の利益を考慮し、最もふさわしい生活の場になるように努力している	3.6
	3. 子ども一人一人の人権を尊重し、愛情をもって保育にあっている	4.0
	4. 職員会議に参加できない職員には、会議録の回覧を行うなど情報共有する手段を講じている	3.9
	5. 共有された情報は適切に記録・保存されている	4.0
守秘義務	6. 子どもに関する情報を記録するため、保育台帳など統一した様式を作成している	4.0
	7. 園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している	4.0
	8. 園内で知りえた事柄について個人情報保護法に基づいた守秘義務を徹底している	3.9
	9. 子どもに関する情報は、個別かつ一元的に管理されており必要な時にすぐに見ることができる	3.6
安全・危機管理	10. 火災や地震、水害を想定した避難訓練を定期的実施している	3.9
	11. 不審者情報などを知らせるために掲示板などを効果的に活用している	3.1
	12. 園内の施設整備・遊具などの安全点検は毎日実施している	4.0
	13. 職員は救急救命法について研修を受講している	3.7
	14. 保育園内で起きた『ヒヤリ・ハット事例』について事故発生を未然に防ぐための検討・努力をしている	3.7
保育環境	15. 子どもが不安になった時などにいつでも応じられるよう保育士が身近にいる	3.7
	16. 保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育室づくりを心がけている	3.8
	17. 園庭や散歩など戸外で遊ぶ機会を目的をもって取り入れている	4.0
	18. 子どもが活動しやすいように、その都度、室内の温度を確認し、温度調整、換気を行っている	4.0
健康管理	19. 玩具、遊具などは常に衛生的に保持している	3.3
	20. SIDS（乳幼児突然死症候群）や感染症など予防の対策がなされている	3.8
	21. 子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人ひとりの保育に活かしている	3.9
	22. 子どもが危険な場所・危険な遊び方がわかり、安全に気をつけて行動できるように伝えている	4.0
保育内容	23. 身近に自然に触れる機会を用意し、季節感や豊かな感性を育む配慮をしている	3.7
	24. すべての園児について一人ひとりの最善の利益とその人権を尊重している	3.8
	25. 当番活動などが日常生活の中で行われている	3.6
	26. 基本的な生活習慣は、園児の発達を考慮し家庭と連携して状況に応じた対応をしている	3.9
	27. 一人ひとりの子どもの自主性を尊重し、家庭と連携して状況に応じた対応をしている	3.8
	28. 常に温かい態度や言葉づかいで子どもに接し、信頼関係を築くようにしている	3.3
	29. 園児同士の関わりで、順番を守るなどの社会的ルールを身につける配慮をしている	3.9
	30. 温かい受容的な雰囲気や関りが子どもの自信や自己肯定感を育むことを理解して保育している	3.8





発達 の 援助	31. 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを受け止め、言葉や身振りで表すなどし、適切な配慮を行っている	3.7
	32. 常に子どもが安心して自分の気持ちを表現できるような態度で接している	3.4
	33. 子どもの要求や質問などに対して何を求めているかを理解し、適切に対応している	3.4
	34. 泣く子どもに対して、状況に応じ抱いたり優しく声かけをし、子どもの気持ちに寄り添うようにしている	3.7
食 育	35. 発達に応じた食事の介助を適切に行い、楽しく和やかに食事ができる環境がある	3.4
	36. 子どもの食べる量や好き嫌いを把握し、個人差に応じた対応をしている	4.0
	37. 献立や調理法、行事食を理解し子どもが食に対する興味を持てるよう話題を提供している	3.8
	38. 保育計画に位置づいた年間の食育実施計画を作成し、豊かな経験ができるよう実践・評価まで全職員で行い、情報共有を行っている	3.8
	39. 日々の保育の中に年齢別食育計画が実践できるような工夫がある	3.7
	40. 園外保育で季節の野菜を観察したり、ときには園庭でおやつを食べるなどいつもとは違った雰囲気の中で楽しめるよう工夫している	3.7
	41. 調理員が食事のようすを見る時間や保育士と調理員が意見交換を行う場所を作っている	3.4
	42. 食物アレルギーなどのある園児は、医師の診断指示のもと全職員で対応を把握し、個別配慮が適切にされている	4.0
	43. 毎月の予定献立は保護者に示されており、サンプルでその日の献立をまた給食中の様子も伝えている	4.0
	44. 誤飲・誤嚥に繋がることのないよう、職員同士連携を図り見直すことができている	3.8
子 育 て 支 援 ・ 地 域 と の 連 携	45. 送迎時の会話や連絡ノートなどを活用して子どもの様子を伝えている	4.0
	46. 保育参観などの機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている	3.8
	47. 保育園の中で異年齢児の子どもとの交流が行われるよう計画している	3.5
	48. 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による押しつけをしないよう配慮している	3.9
	49. 保護者からの相談に応じる体制を作っている	4.0
	50. 保護者からの相談内容などを担任一人の問題にしないで園全体で受け止めるようにしている	3.9
虐 待 へ の 連 携	51. 日々の登園・帰園時などの様子から、保護者などと子どもの関係を観察している	3.9
	52. 子どもの心身の状態を定期的、継続的に観察し必要に応じて随時把握し記録している	3.8
	53. 虐待が疑われる子どもの特徴を理解している	3.9
	54. 日頃から関係機関と連携を図るための取り組みを行っている	3.5
	55. 虐待を発見した場合は得られた情報が速やかに園長・副園長に報告する体制がある	4.0
	56. 不適切な養育の可能性があると感じた場合には、速やかに園内で情報を共有し対応を話し合うようにしている	3.7
	57. 保育園での対応に限界がある場合は、関係機関に通報している	3.8
保 育 士 の 責 務	58. 一人ひとりの子どもの活動や姿をしっかり記録に留めることができているか	4.0
	59. 毎日笑顔で子どもや保護者、同僚に接するよう心掛けていますか	4.0
	60. 子どもとよく遊び一緒に楽しんでますか	4.0

